

育成をめざす資質・能力とICT利活用について

ICTの利活用については、黒板やノート、文房具などと同じように**基盤的なツール**として学習の環境と捉えるという視点と、教科等に関わる**資質・能力を育成するツール**として活用するという視点の両面で考えるとよいでしょう。

特に、クラウドの活用は空間的・時間的制約を超えた関わりを生み出すという特徴から、「個別最適な学び」と、「協働的な学び」を一体的に充実させていくために必要不可欠であるといえます。また、AI等の先端技術の強みを生かした新たな学びの可能性について考えていくことも重要です。

これまでの実践とICTとの最適な組合せの中で、子どもたちの可能性を引き出し、「主体的・対話的で深い学び」を実現させていきましょう。

ICT利活用の捉え方

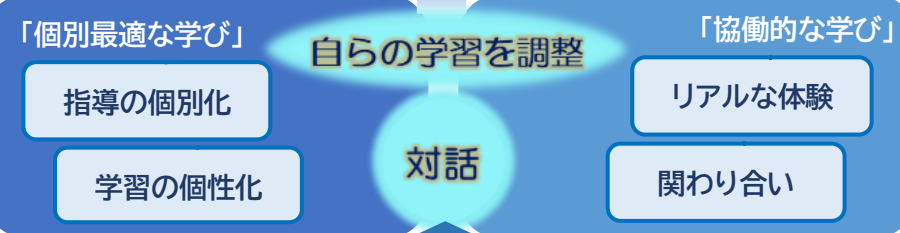


クラウドを活用した学びの充実



資質・能力の育成

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進



- 基盤的なツールとして、学習の環境と捉えるICTの存在
- 教科等に関わる資質・能力を育成するツールとしてのICTの活用

ICT活用事例集



やまおり

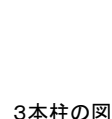
授業について考えるときの視点について ～主体的・対話的で深い学びを実現する～

- 単元(題材)構想 … 各授業がつながり、子どもが成長を実感できる学びのまとまりとなっていますか？
- めあて … 子どもにとって、見通しをもって学びに向かうためのものになっていますか？
- 学習活動 … 子どもを授業のゴールに確実に導くための活動になっていますか？
- 振り返り … 引き出したい振り返りを具体的に想定した授業づくりになっていますか？
- 発問 … 子どもが自分の考えをもち、学びを広げたり深めたりできる発問になっていますか？
- 板書・ICT … 子どもの理解を促す分かりやすい板書やICTの利活用になっていますか？
- 評価 … その授業で身に付けさせたい資質・能力を見取る評価になっていますか？

授業の中での教員の働きかけについて、3つの視点で考え、これらを磨いていきましょう。
〈発問〉…思考に問いかける 〈指示〉…行動を指示する 〈説明〉…理解を促すために説明する

山口県の学力向上の3本柱

山口県では「未来を拓く たくましいやまぐちっ子の育成」という教育目標を掲げ、その実現に向け、「学校の組織力の充実」「教員の授業力の向上」「学校・家庭・地域の連携力の強化」という柱に沿った取組を進めます。



3本柱の図と
関連資料
リンク



検証改善
委員会
からの提言



授業づくりと
評価の手引き
【改訂版】



授業づくりガイド

令和7年9月（一部改訂）
山口県教育委員会

全ての子どもたちの可能性を引き出すための
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実と
「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして

この『授業づくりガイド』は、日々の授業づくりの参考資料として作成したものです。各項目に掲載している二次元コードを読み取ることで、さらに詳しい内容の資料にアクセスすることができます。随時参照できるようにし、積極的に活用してください。



育成をめざす資質・能力

急激に変化する時代の中で、子どもたち一人ひとりが、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、未来を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが求められています。

このため、平成29年3月告示の学習指導要領では、**育成をめざす資質・能力**を右の三つの柱で整理し、各学校において、育成をめざす資質・能力を社会と共有し、**よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創る**という理念を実現するためのカリキュラム・マネジメントが重要であるとされています。

山口県では、各学校が、育成をめざす資質・能力を明確にした『**学校・地域連携カリキュラム**』の更新、改善を行い、学校と地域が連携・協働する教育活動を推進することで、『**ふるさと山口の創り手**』の育成をめざしています。

【育成をめざす3つの資質・能力】

知識及び技能

何を理解しているか、何ができるか

思考力、判断力、表現力等

理解していることやできることを
どう使うか

学びに向かう力、人間性等

どのように社会や世界と関わり、
よりよい人生を送るか

カリキュラム・マネジメントの手引き
理論編 実践編



学校・地域連携カリキュラム

①学校の基本方針を示す グランドデザイン

ビジョン

- 【目的】家庭や地域との理念の共有
【盛り込まれる内容】
- ◎中学校区や各学校の教育目標
 - ◎育てたい子どもの姿
 - ◎育成をめざす資質・能力
 - ◎学校・地域の課題
 - ◎重点取組事項

②総合的な学習の時間を 核とした9年間の単元配列表

設計図

- 【目的】学校教育目標と総合的な学習の時間、各教科等との関連の明確化
【盛り込まれる内容】
- ◎児童生徒や学校、地域の実態等に応じた探究課題の設定
 - ◎総合的な学習の時間と各教科等との関連

【見通しを示す「めあて」】

資質・能力を育成する授業を実現するためには、子ども自身が主体的に学びに向かうことが大切です。

子どもは、期待と不安の気持ちをもって、授業に臨みます。授業者は、**子どもが授業のゴールを自覚し、見通しをもって学びに向かうことができる**ような「めあて」を設定しましょう。

めあてと振り返り



【主眼(ねらい)達成のための学習活動】

資質・能力を育成する授業を実現するためには、子ども自身が目的意識をもって学習活動に取り組むことが大切です。

子どもは、準備された活動を楽しむことに夢中になります。授業者は、『引き出したい振り返り』を意識し、子どもが教科等の「**見方・考え方**」を働かせながら**主眼にたどり着くことができる学習活動**を準備しましょう。

見方・考え方

活動のはじめに、**目標を子どもと共有**することも大切です。



【具体的な子どもの言葉で想定する

『引き出したい振り返り』

資質・能力を育成する授業を実現するためには、子ども自身が自分の学びの意味や価値を実感することが大切です。

子どもは、授業での学習を通して、分かることやできることを増やしたいと願っています。授業者は、**主眼を踏まえた上で、『引き出したい振り返り』を具体的な子どもの言葉で想定することから、授業づくり**を始めましょう。授業の終末に、「振り返り」のための時間をしっかり確保しましょう。「振り返り」は**自らの学習を調整すること**につながります。

必要に応じて視点を示したり、価値付けをしたりしましょう。子どもの「振り返り」を全体で共有することも有効です。

「振り返り」に関する資料



～子どもの思いや願いを大切に、資質・能力を育成する授業を！～

【大きなまとまり【＝単元（題材）】で指導と評価の一体化を図る】

資質・能力を育成する授業を実現するためには、子どもが既習内容を生かしたり、次時とのつながりを意識したりしながら学習に臨むことが大切です。

子どもの学びは、1単位時間の授業で完結するわけではありません。1単位時間の授業を通して見える変化は小さいため、子どもにとって、自分自身の成長を実感することは難しいと考えられます。授業者は、**大きなまとまり【＝単元（題材）】で学習及び評価の計画**を立てましょう。各授業が、単元においてどのような役割をもっているのか意識しましょう。また、子どもが授業のつながりを意識することができるように働きかけ、**計画的に評価の場面を設定**し、子どもの学びの成果を見取り、次の学習につなげましょう。

指導と評価の一体化



日常的な授業改善に向けて

○板書型指導案 中学校 3年 理科 運動の規則性

単元 運動とエネルギー

主眼 台車の運動についての観察、実験をもとに、運動の様子を分析する活動をととして、物体に力が働いていないときの運動の様子について規則性を見出すことができる。

評価 物体に力が働いていないときの運動の様子について、規則性を見出して表現している(思・判・表)。

＜考察シート、振り返り＞
引き出したい振り返り

「記録テープを並べたものと、作成したグラフが同じ形になって驚いた。力が働いていないと同じ速さで進み続けることがわかった。他の班の話聞いて、力が加わると減速することもわかった。斜面の角度の違いで運動がどのように変化するのかを同じように調べてみたい。」

【主体的・対話的で深い学びを実現するICT活用のポイント】

●数値を入力するとグラフが作成できるシートを使用することで、考察する時間を十分に確保する。

●考察を入力するシートをクラウドで共有することで、個々の考えや各班での話し合いの内容を可視化し、学級全体での協働につなげ、個々の考えを深めることができるようにする。

めあて
台車の運動の様子を記録し、規則性を見出そう！

記録テープや動画からどんなことが分かるか

等間隔の記録

等間隔でないのはなぜだろう

等間隔ではない記録

時間と距離のグラフ

時間と速さのグラフ

グラフの形からどんなことがわかるだろう。

○この物体は同じ速さで運動をしている。(1班)
○グラフの形は違うけど、2つとも同じ運動を表している。
○2班の物体は、あるところから間隔が短くなっているのを、減速している。

↓何が原因？
何が物体にあたった床の摩擦の変化
記録テープの摩擦の関係
別の力が働いたのではないかな
まとめ
力が働かないときは等速直線運動
力が働いたときは運動の様子が変化

学習のきっかけ

解決

共有・解決

振り返り

○処理した記録テープから、運動の様子を予想させる。
○台車にどのような力が働いているか考える場面を設定する。

つまずきに対する支援
◆記録テープを6打点ごとに切った意図を確認し、速さの定義を板書する。

○6打点ごとに進んだ距離を表を入力し、グラフを作成するよう指示する。
○グラフの形からどのような運動をしているかを問う。

◆個人で考えを書くことが難しい時は、クラウドで共有された友達のことを参考にできるように伝える。

○考察を入力したシートを見て、吟味する場面を設定する。
○班での話し合いの内容をシートへの入力により全体に共有する。

◆個人で考えたことを班内で共有した後に、話し合いを行うよう指示する。

○グラフの形から考えた運動の様子を、全体で吟味する。
○次時に、斜面の角度の違いで物体に働く力がどうなるか考えることを伝える。

◆他の班と形が違うグラフについて、「なぜそうなったのか」実験の場面を想起させる。

板書型指導案の形で構想した授業の一例です。「運動の規則性」の単元に位置づけられた1単位時間の授業になります。決まった形式はありません。授業の構想のために使いやすい形で続けてみましょう。

指導案例



作成上の留意点



「総案」を書くときは



【子どもの思考を促す「発問」】

資質・能力を育成する授業を実現するためには、子どもを深い学びに導くことが大切です。

子どもは、授業で示された課題について、自分なりの解決にたどり着くと、そこで満足してしまうことがあります。よって、教員や仲間、地域の方等を含む多様な他者とともに**主体的・対話的に学び、自分の考えを広げたり深めたりすることのできる「発問」**が大切になります。授業者は、一つひとつの「発問」の質にこだわるとともに、複数の「発問」を組み合わせるなどして、授業を支える「発問」を考えましょう。

【学びの手掛かりとなる板書・ICT】

資質・能力を育成する授業を実現するためには、子どもの学びを可視化し、共有することが大切です。

授業では大量の情報が行き交っており、戸惑いを感じてしまう子どもも多くいます。授業者は、学習内容や子どもの思考を整理し、子どもの理解を促す**分かりやすい板書やICTの利活用**に努めましょう。板書には、実際の子どもの発言を積極的に取り入れましょう。

授業と家庭学習をつなぐ

【学びに向かう力を育む家庭学習】

資質・能力を育成する授業を実現するためには、子どもが、授業とつながりのある内容に家庭学習で取り組めるようにすることが大切です。

家庭学習に主体的に取り組むことが難しい子どもは多くいます。授業者は、**授業とのつながりを大切に家庭学習になるよう、課題の設定や働きかけを工夫**しましょう。習慣化するまでは具体的なアドバイスや進行管理が必要です。子ども一人ひとりが、『やまぐち学習支援プログラム』やICT、AI等の先端技術も活用し、自ら学んでいくことができるように支援しましょう。

やまぐち子
学習プリント



～日々の授業実践や授業参観を通じて授業力を向上させる～

教員に求められる授業力は、様々な面から考えることができます。

授業を構想する力…学習指導要領の趣旨を踏まえ、教材や子どもの分析・解釈に基づいて授業を構想し、指導計画を立てる力。

授業を運営する力…子どもの発言に対する問い返しなど、実際の授業における状況を受け止めながら、柔軟に対応する力。

授業を改善する力…授業を客観的に振り返り、課題を洗い出し、改善につなげていく力。

授業力を向上させるためには、教員自身が学び続ける姿勢が不可欠です。日常的に授業を公開し、互いに助言し合うなど、よりよい授業をめざしてともに学び、実践を重ねていきましょう。

児童生徒について【児童観・生徒観】

「このような状態にあります」

目標について【目標・主眼(ねらい)】

「このような姿になってほしいので」

教材・題材について【教材観】

「このような価値のある教材・題材を使って」

指導の工夫について【指導観】

「このような指導の工夫をします」